様式7（市教委報告用）

5三鷹大沢台小発第80号
令和6年2月22日

三鷹市教育委員会　様

校長　藏野　貴通
（公印省略）

令和5年度　おおさわ学園　三鷹市立大沢台小学校　　学園・学校評価報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

学園評価　※学園内で統一記述

今年度明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること	来年度の重点課題を解決するための改善方策
②重点課題 ・地域学校協働本部「おおさぽ」の周知と活動の充実。 ・学園研究では、地域資源・人財への理解度は向上し多くの実践を行いおおさわ学園カリキュラムへの位置づけもできた。三鷹市教育研究協力校ではなくなるが、成果の継続と今後の研究の土台としていきたい。 ・主体的・対話的で深い学びの実現を学園として取組み児童・生徒の生きる力をはぐくんでいく。 ・小・中、小・小、幼・保・小の交流活動を充実する。	③　改善策 ・学園の児童・生徒、保護者のみならず地域全体で参加・交流できるような企画を行う。 ・学園ホームページ等を活用し情報発信の機会を増やすとともに教員も保護者、児童・生徒に随時発信を心がける。 ・地域資源・人財の活用カリキュラムに基づき授業を通した活用に取組む。 ・研究の成果を児童・生徒の学びに視点を当てて「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。 ・年間計画に基づき、児童・生徒同士、保護者同士、教職員同士の交流を継続していく。

取組項目	今年度の重点目標	成果	課題と改善方策
コミュニティ・スクールの運営	1、スクール・コミュニティの創造 2、コミュニティ・スクールの運営	・「地域学校協働本部」を「おおさぽ」の名称で、11月よりスタートを切ることができた。従来のCS委員以外の多くの方々とのネットワークの輪が大きくつながっていくと思われる。学校を核としたコミュニティづくりの素地ができたと捉えている。 ・新会長の下、新体制のおおさわ学園CS委員会が順調なスタートを切ることができた。様々な団体からの参加があり、昨年度以上に、熟議等の話合いが活発に行われるようになった。	・年度途中での「おおさぽ」の発足のため、保護者をはじめ、その認知度は、50～60%でまだ高くない。教員の理解も同様である。 ・学園やCS委員会のHPの更新率が低く、発信が少ないため、CS委員会の活動内容が、新たな保護者も含め、まだ十分に浸透していない傾向が見られる。 ・まずは、教員の理解度を上げるとともに、「おおさぽ」に関する実践の内容を、教員自身が児童・保護者に対して、随時発信していくようにしていく。 ・学園HPの担当及び役割を明確にし、更新率を上げるとともに、学校だより等も活用して情報発信の機会を増やしていく。
小・中一貫教育校としての教育活動	1、学園研究の充実	・三鷹市教育研究推進校としての2年間の学園研究の取組を通じて、学園全職員の一体感が高まり、その研究成果を、国立天文台をメイン会場にして、市内外に向けて発表することができ、好評価をいただいた。 ・学園研究を通して、国立天文台をはじめとする大沢地域にある施設や豊かな人財等の活用のしくみを構築することができ、児童・生徒の学びの質を深めることができた。	・地域人財・施設に対する理解及び多くの実践を行うことができたが、実際の授業での活用の事例を多くはない。研究発表の際の研究授業も2例だけであった。 ・研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現」の検証は、十分にはできていない。 ・今後も、地域人財・施設の活用の実践を計画的に積み重ね、計画に基づいて、授業を通した実践事例をさらに増やしていく。 ・研究の成果を、児童・生徒の学びに視点を当てて検証して、その質をさらに高めていく。
（知）確かな学力	1、「主体的・対話的で深い学び」の推進 2、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進	○2年間、三鷹市の教育研究校として、「主体的・対話的で深い学びの実現」のために、地域人財・施設・物を全教科等で活用する研究を行ってきた。「おおさもMAP」と「おおさわの地域資源活用カリキュラム」という成果物も作成できた。各教科等がまとまっているため、汎用性が高く、充実した授業展開ができた。 ○地域人財・施設・物という具体的な対象を扱って授業を展開すると、主体的・対話的で深い学びの実現が図りやすい。そのため、実感を伴った理解や思考・判断・表現力も豊かになった。	●学習用タブレット端末が導入されてから3年がたった。児童・生徒は使いこなしているものの、一部、関係のない使い方をしていたり、十分にeライブラリなどに取り組めていなかったりする児童・生徒もいる。 ●学校での学習に加えて、家庭の学習も充実させたい。いわゆる宿題と言って与えた課題だけをやる家庭学習というのではなく、そのために、「個別最適な家庭学習」を進めたい。 ◆学習用タブレット端末の活用について年度初めにオリエンテーションを行い、発達の段階に応じた使用方法やアプリの活用について、理解させてから使用させたい。 ◆「個別最適な家庭学習」をするためには、学習用タブレット端末の様々な機能・アプリを活用することが有効である。学習用タブレット端末を効果的に活用し、主体的に家庭でも学習できるようにしていく。
（徳）豊かな人間性	1、「人間力」「社会力」をはぐくむ。 2、生活指導と教育相談の充実	・地域人財、地域の資源を活用することで児童・生徒の興味・関心を高め、新たなる気付きや好奇心を引き出し、「人間力」「社会力」を育むきっかけづくりができた。 ・児童会・生徒会活動の充実で自発的活動が増した。児童・生徒一人一人に寄り添いながら、心を育てていくために、「聞く」姿勢を今後も堅持していく。	・地域人財、地域資源の活用には、授業への準備、当日の動き、振り返り、次回へのつなぎ等を「継続」していくためのシステム化の構築を図っていく必要がある。 ・児童・生徒の「自己有用感」（自分が必要とされている、役に立っているという感覚）や「自己肯定感」（自分が好きだ、自分にはいいところがあるという感覚）の向上が十分とは言えない。 ・地域人財、地域資源を生かす授業が担当者が変わっても継続していけるように一連の流れをシステム化し、誰でも授業ができるようにしていく。 ・「自己有用感」「自己肯定感」を育むために、周りの大人による価値付けや、「場の設定（機会）」を今後も増やしていく。
（体）健康・体力	1、基本的生活習慣の確立	○小学校においては、異年齢集団での交流、朝遊び等、体を動かす機会が増えているため、遊び・運動が活発になってきている。また、基本的な生活習慣についても教員の指導が功を奏し、児童にも定着してきている。 ○中学校においては、体育祭及びマラソン大会について、質問紙調査において生徒・教員共に肯定的な評価をしている。また、基本的な生活習慣が身に付いてる生徒がほとんどである。	●昨今の熱中症防止対策のため、季節・時間帯によっては、屋外での活動が難しくなってくる。 ●基本的な生活習慣については、学校ではもちろんのこと、家庭での日々の生活も関連が深いので、保護者への啓発が重要 ◆体育館開放や涼しい時間帯での運動、活動の精選（体育科や保健体育科の年間指導計画の見直しも）が必要になってくる。 ◆保護者会、ホームページ、学校だより等、様々な方法で基本的な生活習慣についての学校での様子（よさも含めて）を伝え、家庭への啓発も行う。
特色ある教育活動	1、特色あるキャリアアントレプレナーシップ教育	○キャリア・アントレプレナーシップ教育及び総合的な学習の時間では、年間指導計画を基にコロナ禍以前よりも充実した取組ができた。 ○CS委員やほたるの里の村民等、学習した内容について外部評価をしていただき、内容の洗練化ができた。	●他地区から三鷹市に異動した教員も多いことから、今一度、「起業家教育」のねらい、定義、教科等への位置付けを確認する必要がある。 ●9年間を見通した教育が重要なので、小・中の教員の連携、計画の関連性・系統性を追究する。 ◆キャリア・アントレプレナーシップについて学園研の中で取り上げ、皆で考えを共通理解したり、優れた実践を紹介したりできるようにする。 ◆小・中のキャリア教育担当が中核となり、キャリア・アントレプレナーシップ教育の相互授業観察、計画の見直し等を行い、実効性のあるものに変えていく。
教育の質の向上を目指した学校の働き方	1、教員のタイムマネジメント力の向上	○タブレット端末や短焦点プロジェクター等のICT機器の活用により、ペーパーレス化や事務作業の効率化が可能になり、超過勤務時間の短縮化につながった。 ○スクール・サポート・スタッフの任用により、印刷等作業が削減され、学習指導や生徒指導に専念することができたとともに、部活指導員や部活指導助手の積極的な活用により、休祭日勤務が減少し、休暇取得が取りやすくなった。	●ICT機器の活用に消極的な教員がおり、事務作業の効率化につながらず、超過勤務時間の削減が達成されなかった。 ●退勤時間を過ぎても、会議を続けることがあり、心身の疲労により、翌日の勤務に不安を残すことがある。 ◆ICT支援員やGIGAスクール推進委員を通じて、ICT機器の活用に関する研修会を実施したり、お知らせを配布し、すべての教職員が活用できるように進めていく。 ◆2週間および月ごとのタイムスケジュールを、週案等で作成させて、教職員のタイムマネジメントの意識向上を図るとともに、月ごとの超過勤務状況を校支援を利用して、教職員一人一人に周知する。

学校評価　※学校ごとに記述

今年度明らかになった課題　※「第2回学校関係者評価」を経て記述	来年度の改善方策　※「第2回学校関係者評価」を経て記述
1　学力と体力を、さらに向上させていく。 2　おおさわ学園の特色である体験的・探究的な学びの授業研究ができていない。 3　学校や家庭での読書の習慣が十分に身に付いていない。 4　東京ベーシック・ドリルの達成者が少ない。基礎・基本の定着が不十分である。 5　児童の自己肯定感や自己有用感をより高めていくことが必要である。 6　整理整頓が、徹底できていない。 7　家庭学習の習慣も、いまだ課題である。 8　働き方改革をより推進していく。	*1・2・3・4 ・学園研究では11分科会での研究授業を行い、教員同士が学び合うことで授業力を高め、児童・生徒の学びを深める。 ・東京ベーシック・ドリルと既習事項の復習を授業や補充学習、家庭学習に取り組ませていく。 ・朝遊びや休み時間の遊び方の多様化を目指す。子どもの課題に沿った内容にしていく。 ・朝読書・読み聞かせ、図書委員会の活動を充実させ、保護者とも連携していく。 5　子ども主体・子どもファーストの学校創りを行い、子どもの活躍する場を多くする。 6　係活動を活用して、自主的に整理整頓できる習慣を学級で高めていく。 7　自立した学びや主体的な学びを家庭と学校とのハイブリッドで行う。 8　通知表の総合所見や水泳指導・学園研究や校内研究のあり方等を変え、管理職主導で働き方改革を推進する。*

取組項目	学校の経営目標（中期目標）	今年度の重点目標（単年度目標）	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	第1回評価 取組	第1回評価 成果	第2回評価 取組	第2回評価 成果	自己評価（第2回）の結果	学校関係者評価（第2回）
人間力・社会力の育成	学校3部制の第2部の子どもの居場所づくりの充実	朝遊びを大沢けやきっずと学校の共催とし、充実させていく。	CS委員会や大沢けやきっず、地域人財・保護者ボランティアと連携して、朝遊びや休み時間、放課後開放の充実を図る。	4	2	4	2	教員の数値は90.9%で、児童に休み時間に校庭で遊ぶように声をかけ指導・支援した。運動会や学芸会等の行事や熱中症・インフルエンザ・コロナの対応で、無理に校庭には出さない時期もあったので1学期（100%）より数値が減少した。 児童の数値は79.8%でほぼ「3」の数値で、1学期（79.5%）よりも微増した。寒い中でも校庭で朝遊びをする児童も多くいるが、よく校庭で遊んでいる児童とそうでない児童の2極化がありそうである。 朝遊びは11月から三鷹市シルバー人材センターの方々が毎日2人来てくださり、一緒に見守っている。保護者ボランティアの方々も継続してくださっている。3学期からは保護者ボランティアの方々にもけやきっずから謝礼金が出る予定である。	妥当である。11 ・外遊びが好きではない子もいると思いますが、短時間に友達と工夫して遊ぶことも時間管理の訓練になると思います。多くの方の協力を得て、子供たちが遊びやすい環境を整えていただきたいです。 ・朝遊びは、対体力づくりと共に共働き家庭にとってありがたい。 ・朝開放は、今後安全管理において、地域子どもクラブと合わせ研修の機会を市に要望したい ・夏の酷暑から子どもたちを守る為、外遊びが勧められない状況がありました。難しい判断が、求められる時代になったと感じます。 ・朝遊びの保護者ボランティアは現在はちょうどよい人数だが、自身の子どもが卒業した後も参加していただけるかはわからないので、新年度のリサーチが必要。児童の達成度と季節気温に相関関係はあるのでしょうか。→寒くなってくると参加率が落ち、達成度も低くなると考えられます。 ・外遊びを安全に行うための仕組みが整ってきていると思います。 ・評価できる数値だと思います、児童達成度が低い理由も把握されていますので、問題ないのではと思います。 ・良いと思います。ただ、朝遊びの開放の見守りの方とシルバー人材センターのお当番の方との間で、取り組む姿勢について若干のずれがあると聞く。シルバー人材の方へは、どう依頼されているのか、教育委員会に確認したい。 ・学年が上がるほど2極化するか。たてわり班活動なども有効と感じている。屋上など普段使用しない場所を使用する特別感もあり、良かったか。→屋上は暑かったり、寒かったりするので季節によって変わります。
学園・学校運営	学園研究・校内研究の充実	地域人財の活用を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、児童の生きる力を育む。	地域人財等を活用した体験的・探究的な学習を通して、児童の探究心を育む授業を実践する。	1	3	2	3	教員の数値は、77.3%と1学期（63.6%）より上がっている。2学期に入り生活科や総合的な学習の時間が本格化し、体験的・探究的な学習の取組みが増えている。 児童の数値は83%と1学期（87.8%）より低下しているが、おおさわ学園の特色である地域人財を活用した学びは継続できている。	妥当である。10 ・おおさわ学園ならではの学習は魅力的なので、行事が多くなり先生の負担も大きいと思いますが、無理ない範囲で継続していただきたいです。 ・地域人財確保もむずかしくなってきている中、これからの課題と考える。 ・今後も先生方が要望を出しやすく、紹介もしやすいシステムが活発化していくことを期待します。 ・学園研究を通じて教科によっては地域資源や人財の活用が難しいものも見えてきた。児童の達成度がある程度高いのであれば、内容を皆をしながら継続していただきたい ・地域人財の活用については、求める人財についてCS委員会等で情報提供してもらえれば、委員それぞれから色々な方を紹介できるのではないか。また、委員会では間に合わない時は、メール等で情報提供してもらってもよいと思う。 ・地域人材バンク（あるのか、ないのか）等計画がしやすいようなシステム作りも有効と思う。 ・町探検など学校外での活動では、子ども達の生き生きとした取り組みが間近に見られるので楽しい。地域としても応援したい。 ・改善されてきており評価できる数値だと思います、引き続きよろしくお願いいたします。 ・良いと思います。コロナが5類に移行してから先生方の「地域」を取りこんだ授業内容が多くなった。少しずつ学校と地域のつながりが戻ってきたように感じる。 ・今年度はより地域人材や、CSサポート隊（現おおさぽ）への依頼も増え、人材を活用という点において、前年度よりさらに発展したように感じる。探究的な学習という点において、内容が不足していると感じる。応用や探究の点において、やり方がわからず踏み込めない・理解が足りない児童が多いか。→自分の課題に対して広く深く探究することに慣れていない現状もあるかもしれません。学んだことを地域・社会に生かし実践していくことが求められています。（キャリア・アントレプレナーシップ教育・STEAM教育など）
小・中一貫教育校としての教育活動	読書活動の推進	読書に親しみ、読解力・表現力・想像力等を高め、豊かな心を育む。	火・水・金曜日の朝読書・家庭での読書を行い、読書習慣を身に付けさせる。	3	3	1	2	教員の数値（68.2%）が激減し、それが児童の数値（79.7%）に反映している。運動会や学芸会などの行事に追われて、朝読書がおろそかになっている現状がある。教職員に徹底し、3学期は全校でしっかりと朝読書に取組んでいく。	妥当である。10 ・努力に期待 ・朝読書のよい週間が定着していけば、読解力の向上につながると思う。 ・学期の行事による変化とみられますが、そういう時期は家庭での習慣をより呼びかけてみるのはいかがでしょう。→はい。家庭と連携していきます。 ・読書に関しては、CS委員会の取組としても家庭に理解・協力を求めたい ・行事に関連した読書本のススメなど工夫も必要。 ・行事が復活してきたので、ノウハウを作るまで先生方は忙しさが続くのではと思う。 ・行事等で朝読書ができていなくても、他で読書をしていればよいと思う。学園アンケートの読書の結果も併せて取り組んでいけると良い。 ・数値が低い理由が把握できておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。 ・良いと思います。「朝読書がおろそか…」とあるが、各教室にはクラス本が種類も豊富にたくさんあり、休み時間や帰る前に図書館に向かう子を見かける。 ・朝読書の充実を期待する。家庭での読書は、塾・習い事・宿題などで時間の確保が難しい家庭も多いか。
小・中一貫教育校としての教育活動	個別最適な学びと協働的な学びの推進	①学習用タブレット端末を効果的に活用する。 ②1年間を通して当該学年の東京ベーシックドリルを、夏休みには宿題として前年度のものを修了させ学力向上を図る。	①OJTで学習用タブレット端末の効果的な活用について研修し、楽しくわかりやすい授業を実践していく。 ②東京ベーシックドリルを授業・補充学習、家庭学習等で取り組ませて学力向上を図る。	1 ① 81.8 ② 27.3	1 ① 81.2 ② 30.1	1 ① 77.3 ② 27.3	1 ① 81.2 ② 33.5	①学習用タブレット端末の児童の数値は81.2%と1学期と同じ数値で、安定している。休んだ時や不登校傾向の児童も学習用タブレット端末を使用して、授業に参加している。学習用タブレット端末の児童のスキルがとても上がっており、クラスによってはドラマを作成し、児童の主体的な活動につながっている。 ②東京ベーシック・ドリルについては、教員・児童とも低い数値が続いている。読解力が不足しているため、読み解くことができず、取組めない児童もいるのが現状であり、東京ベーシック・ドリル以外の個別の対応が必要である。	妥当である。12 ・タブレット端末利用は便利さと利用の個人差があるが、子どもの協力心に期待 ・課題は②　地域未来塾含む家庭学習において、先生には負担増だが、個の課題に応じた教材が必要。児童はITCの活用スキルが上がっていて、検索など上手になりパパっと効率よく行えるようになっているのでしょうが、じっくり読んで、じっくり考えることの重要性も今一度考えたい ・ベーシックドリルは、未来塾などで取り組みの際のヒントを出してもらえれば、活用できる子が増えるかも。 ・②学校で、習った、できた、という体験はやる気につながると思いますので、可能な範囲で、ていねいな対応ができるとよいと思います。 ・評価にありますとおり、東京ベーシックドリルに拘ることなく子ども達にあった教材等での対応でもよいと思いました。→既習事項の確認がとても重要であるので、授業の最初に取り組ませていきます。 ・②の東京ベーシックドリルについては、冬休み前や長期連休前に、ランチルームにある各学年の紙ベースのドリルを持っていく親御さんの姿を見かけた。子どもだけでなく、保護者の方への宣伝もあれば取り組むかと思う。 ・②について、システム的に使用がしづらく、使用・操作のしづらさが原因で、学習単元・内容への嫌悪・嫌厭へと直結してしまっているため、学習自体へのモチベーションが下がるので積極的は使用は難しいか。ただ、使用する中で、子どもたち自身は操作に適応し始めている様子もみられる。
児童・生徒の学力・健全育成	子どもファースト・子ども主体の学校創りの推進し、いじめゼロを目指す	子どもたちが決めた合言葉「輝け！可能性無限大の星」を実現させ、児童の主体性・自己肯定感・自己有用感を向上させる。	各委員会活動を主体的に取り組ませ、子どもたちが活躍する場面を多く自己肯定感を高める。	4	1	4	1	教員は児童の自己肯定感や・自己有用感を高めることにしっかり取り組めた。特に運動会や学芸会は大きな成果があった。しかし、その成果が児童の数値に顕著に表れているわけでもなく、1学期（78.2%）からは79.3%と微増である。あいかわらずの自己肯定感の低さが気になり、その理由はコロナや学力の低さなどにもあるだろう。2学期は全校朝会で児童の発表を増やしたが、3学期も継続する。	妥当である。10 ・評価努力：いじめは垣間見えるもの、見えないものがあり、子どもの話をひたすら聞き、受け止めてほしい ・不登校児童数が数人と少ないことは、個々の児童に対する日頃の丁寧な対応の結果と言える。 ・教員と児童の評価の差となる要因、またいじめ解消半数とがいえ11件の早期解決ができるようお願いします。→はい。丁寧に見守り、児童同士の関係が良好となるようにしていきます。 ・取組「自己有用感」を結果「いじめ解消率」で示すのが難しいように思う。いじめ対応は丁寧に見守りを続けると解消率は低くなるので。「自己有用感を上げるには学力向上！」同感ですが、ではどうしたら・・・・→成果は「いじめ解消率」を評価指標とする市教委の方向性があります。（※1） ・不登校の児童は数人とありますが、具体的には何人でしょうか。CS委員会でもいじめや不登校の現状をお聞きし、何か取り組めることがあれば学校と協力して取り組んでいけるとよいと思う。→4人です。 ・自己肯定感を数値であらわすのはなかなか難しいと感じるが、失敗を恐れずチャレンジしていく姿勢をどんどん褒めていくことが大事かと思う。 ・子どもの自己肯定感は、体験から実感に移るまで、時間が必要なのではないだろうか。 ・行事などがコロナ前にほぼ戻ってきている中で、自分を発揮できる場面を増やしていけたら。 ・成果の評価基準が、この項目に合っているのでしょうか。→※1 ・いじめ対策は特に気を遣い大変だと思いますが、引き続きよろしくお願いいたします。
児童・生徒の学力・健全育成	考え議論する道徳の充実	OJT研修で考え議論する道徳の指導方法や手法を研修する。	自分の考えをもち、議論を通して学び合う授業を実践する。	1	3	2	3	教員の数値は72.7%と1学期（68.2%）より上がった。これはOJTの効果があり、教員の指導力・授業力が高まっていると考えられる。それにともない児童の数値も82.6%と上がり、1学期（81.2%）より微増している。今後も継続していく。	妥当である。11 ・先生と児童の数値が両方上がっているのはとても良い傾向ですね ・これからが楽しみです。 ・多くの児童がディベートに対して高い手ごたえを感じているのは良い議論ができたという事。先生方は自信を持っていいと思います。 ・前回より改善されてきており評価できる数値だと思います、引き続きよろしくお願いいたします。 ・アウトプットをする中で、他者の意見など、多様な意見を採用する経験が今後も活発になるよう、継続を期待する。
児童・生徒の学力・健全育成	朝遊び等を通しての体力向上	体力に関する自己の課題を明確にして、すすんで解決し運動に親しむ習慣を身に付けさせる。	朝遊び・休み時間・放課後や体育の授業・縦割り活動等を活用して遊びや運動を楽しませる。	4	2	4	2	今年度から縦割り活動で体育的活動を取り入れ、児童が主体的にたくさんの遊びの中から選び、異学年で交流を楽しめている。子ども同士の遊びの種類や文化も広がり、よい交流となっている。	妥当である。10 ・児童の達成度がまだ低いと思われるので、遊びに入りずらい子供への配慮にも期待します ・縦割りでの異学年の交流活動は、貴重な体験になると思う。できるだけその機会を増やしていただきたい。 ・児童の達成度が意外と低いのはなぜでしょう。→児童の達成度は79.5とほぼ8割である。一人で遊ぶことを好む児童もいるかもしれません。 ・まだ児童の達成度が低いが、継続すると上がっていくのでは ・評価コメントの内容から、今後、児童の達成度も上がっていくのではと思います。引き続きよろしくお願いいたします。 ・休み時間の縦割り班の活動をよく見かけます。それによる影響か、放課後の開放でも、学年問わずにボールゲームをしたり、1年生が6年生と遊んでいることが目立った。 ・異年齢が集団で活動する良さを感じる活動である。今後もより発展したものを期待する。
児童・生徒の学力・健全育成	基本的な生活習慣の向上	①身の回りの整理整頓の徹底 ②家庭学習の充実	①机の中や道具箱などを定期的に整理させ、整理整頓を意識して生活する習慣を身に付けさせる。 ②家庭学習では宿題が終わったら、読書をする習慣を身に付けさせ、確実に学年×10分の学習習慣が身に付くようにさせる。	3 ① 100 ② 63.6	2 ① 72 ② 68.2	3 ① 95.5 ② 68.1	1 ① 69.8 ② 66.1	①整理整頓の数値は教員・児童とも下がってしまった。全校朝会や各学級で指導しているが、浸透していない。児童の主体的な取組みが必要である。 ②家庭学習は教員の数値は68.1%と1学期（63.6%）より上がったが、児童の数値は66.1%と1学期（68.2%）より下がった。まだまだ児童の意欲付けや家庭との連携が必要である。	妥当である。10 ・評価努力：学校だけではできない、家庭生活全般から見ていく ・①の教員と児童の評価に大きな差、要因は何でしょう。→教員は声掛けをして指導をしている現状があります。ただ、児童は教師に言われたらできるけど、自分からはできず定着していないと考えられます。 ・整理整頓は、先生方や家庭、大人が率先しないと！家庭学習、特に家庭における読書環境の大切さはCS委員会でも伝えていきたい ・整理整頓は、注意されることはあっても、褒められることが少ないと思うので、児童によってゆるせる程度が違うかも。 ・なぜ整理整頓が必要なのか、家庭学習が必要なのか、その点も併せて伝えていくのが良いのではないでしょうか。→全校朝会で取り上げた内容です。日頃からの声掛けが大切だと考えます。 ・鉛筆などの文具だったり、教科書やノート、プリントが散乱していたり、びっくりする教室がある。保護者会などでお道具箱点検をしている保護者の姿をあまり見かけなくなった。 ・①学習活動と切り離して考えず、片付けや整理整頓までが一連の流れとしないと身につきにくいか。②家庭学習について、宿題や読書を時間数に含めてはいけないと指導さている学年、含めてよいとする学年など、担任により変化するため、学年により偏りがあるか。→含めてよいと考えています。共有を徹底します。
コミュニティ・スクールの運営	地域人財や地域の方々とのふれあいを通しての生き方・キャリアアントレプレナーシップ教育の推進	地域人財の活用を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、児童の生きる力を育む。	地域人財等を活用した体験的・探究的な学習を通して、児童の探究心を育む授業を実践する。	1	3	2	3	今年度は、11月に学園研究発表があり、研究の成果がとても表れている。成果物の「おおさぽマップや一貫カリキュラム、実践報告書」は今後のおおさわ学園の特色ある学びを持続可能にするものになった。	妥当である。11 ・学園研究発表会は大きな成果を上げたと思う。地域資源や地域人財を活かした教育活動をさらに充実、発展させてほしい。今後も学園を挙げて取り組む課題だと思う。 ・児童の達成度が上がったのがうれしいですね。持続可能にするためにも内容の精査を ・特色を知ることで愛着が生まれ、より一層大切に思えるようになっていく。継続を期待します。 ・11月の研究発表会があったにもかかわらず、教員の取組み評価が若干低いのが気になります。原因の確認と改善にむけた対応が必要と思い割れます。 ・探究心を育む、という点においては今後更なる発展を期待する。
学校の働き方改革	働き方改革の更なる推進	①会議の精選を図り、放課後の時間を確保し補充学習や事務処理を行う。 ②講師の活用や学年間等の教科担任制を推進する。 ③男性職員の育業等を取得促進できるよう共通理解を図る。	①会議を精選し放課後の時間を確保することで、補充学習で学力向上を図るとともに、教員の教材研究等の時間に充てる。 ②講師を多く活用し、教科担任制を活用することで、教職員の専門性を生かし効率化を図り教育活動を充実させていく。 ③男性職員の育業等取得推進について共通理解を図る。	1	1	1 ① 68.2 ② 59.1	4	教員の数値は①・②とも、1学期（①63.6%・②54.5%）より微増している。2学期の教員の時間外平均45時間を達成した教員の割合は92%とよく効果が表れている。来年度も管理職主導で働き方改革を推進する。内容は次の通り。夏休みの水泳指導・通知表・会議の精選・学園研究と校内研究のあり方・私費会計保護者報告書・総合の夏休み18時間・専科教員の副担任としての役割強化・宿泊学習のあり方検討など。	妥当である。11 ・きめ細やかな改革に期待 ・学校行事、地域行事との関わりで負担が増えているのではないか ・教員の着実な取組み成果が表れていると思う。 ・成果の4はすばらしい！できた時間で児童に向き合う時間を！改革推進を管理職主導で行うのも評価できます。残業が多本人に「なぜ残業が多いのか」を考えさせても難しいと思います ・数値が微増しているものの、評価値が低いが、具体的な項目を掲げられて、課題解決への強い意志を感じる。 ・時間はかかるだろうが、細かい取り組みを重ねて欲しい。 ・前回より改善されてきており評価できる数値だと思います、引き続きよろしくお願いいたします。 ・放課後、電話をしている先生の姿を見かけます。コロナなどの影響か、休み勝ちな児童への連絡なのか、学校生活中の些細ないざこざ対応なのか…本当にご苦労が多いと感じます。 ・今後もより推進していただきたい。